

組合ニュース No.4

全大教(全国大学高専教職員組合)九州地区協議会教職員研究交流集会が行われました!

9月7日(土)~8日(日)に大分大学教職員組合の担当で別府にて「大学のあしたを考える」をテーマに開催された「全大教九州地区第16回教職員研究交流集会」に組合から6名参加しましたので、報告致します。

初日は、「徳島大学教職員労働組合の取り組みについて」の特別報告と「統一シンポ①②」が開催され、二日目には職種別分科会が開催されました。

特別報告：「徳島大学教職員労働組合の取り組みについて」

哲学の研究をされている徳島大学の山口先生は、あるべき大学の姿も考察された「大学改革という病」(明石書店)を上梓され、「全入時代」における大学の役割は、「民主的な社会を支える市民の育成」だと自己紹介をされた。また、「大学改革」の現状として、「体系的な問題関心よりは、個々の立場からの問題意識の寄せ集めで、整合性がとれていないうえ、問題に対する手段の選択がおかしいと言わざるをえない」と、論じられ、「競争させると良くなる」とは妄想に過ぎない。経営学の研究や事例では、過度の競争は組織を破壊することが知られていると言います。このことは、山口さんの著書にも問題点が論じられています。

徳島大学の組合の取り組み報告では、「多くの国立大学では、給与の改善など、各大学で可能な対応は限られている」ので、大学の裁量で可能なことを絞って改

善を求めて、「産前休暇の8週間への延長」「有期雇用職員の雇用期限の撤廃」「有期雇用職員の忌引き休暇・妊産婦検診の有給化」などを実現して、さらに大学の労働環境(年休取得が難しい、残業が多い)などについて大学と協議しながら改善を進め、年俸制導入や教員評価についても大学と協議しながら制度設計に意見を述べられているという組合の取り組みについて報告されました。そして、書記長を10年務められ、この間、組合員を2倍に増やされ、「大学の改善は、日本社会全体の改善につながる」という持論を紹介され、今後も「大学の改善や組合員増を実現したい」と、結ばれました。



(全体集会の様子)↑

その後、「大学のあしたをかんがえる統一シンポ①」では、①九州の国立大学の研究経費について②地方国立大学における地域連帯の取り組みについて ③男女共同参画について ④大学における軍事研究についての4点でそれぞれの発表が行われました。

さらに「大学のあしたを考える統一シンポ②」では、①国立大学の組合の役割とは何か ②組合へのイメージの検証 ③職員の組織拡大の可能性 の3名の発表が行われました。

二日目の分科会「非常勤職員分科会」では、長崎、佐賀、大分から出席があり、大分大学では、5年の上限が非常勤職員規則に加わり、この撤廃を要求している。また、労働条件では、組合のこれまでの交渉で忌引き、夏

期休暇、看護休暇、介護休暇、病気休暇、結婚休暇の有給化が実現されたことや、産前休暇を8週間としたこと、クーリング期間を1年から6ヶ月と短縮されたことなどの成果が報告され、組合員に10名が加入されたことなどが紹介されました。

九州地区の「教職員研究交流集会」は、二年に一度の各教職員組合の分担で開催されています。2年後は、鹿児島大学教職員組合が担当しますので、皆さんにご参加いただけるよう今から準備を進めるそうです。どうぞ、佐賀大学の皆さんもご参加いただきますようお願い致します。



(非常勤職員分科会の様子↑)

学長への挨拶

11月6日(水)午後、組合執行部は、10月に学長に就任された兒玉新学長に挨拶に出向き、短時間ではありますが、懇談いたしました。組合側は、平地(委員長)・野口(副委員長)・品川(書記長)・馬渡(執行委員)が出席し、是非、組合の意見等を前向きに受けとめて欲しいと要望しました。

学長からは、組合からの建設的な提案等を歓迎するとのお話がありました。

また法人側は、学長の他、渡理事(副学長)も応対され、今後の団体交渉の進め方等についても意見交換しました。

現在、組合執行部は団体交渉での要求事項をまとめている最中です。皆さまからのご意見をいただきながら、法人側と真摯に交渉して、要求実現に向けて力を入れたいと思っています。(学長室にて)

